

工場内でよくある！

工場内のヒヤリ・ハット 5選

～ 小さな気づきが大きな事故を防ぐ～

ヒヤリ・ハットは「事故の予兆」です。原因を知り、対策を実行して、仲間と自分の命を守りましょう！

※厚生労働省「職場のあんぜんサイト」のヒヤリ・ハット事例を基に、実際の労働災害傾向を参考に作成

安全の基本 3か条

- ① あせらない
- ② あわてない
- ③ 油断しない

なぜ焦るのか？（納期・段取り不足・不安全行動の容認）が事故を招く！

1 はさまれ・巻き込まれ (ボール盤作業)



事例

ボール盤で穴あけ中、手袋がドリルに巻き込まれそうになった。

原因

- ・手袋をしていた
- ・回転部に手を近づけた
- ・材料の固定が不十分だった

対策

- ・手袋をしない（軍手・革手袋は厳禁）
- ・回転部に手を近づけない
- ・材料をバイスなどでしっかり固定する

学び(大切なこと)

回転しているものは止まって見えても危険。慣れた作業ほど危ない。「大丈夫」が事故を呼ぶ。

2 転倒 (床のエアホースにつまずき)



事例

床に出ているエアホースにつまずき、転倒しそうになった。

原因

- ・ホースが床に放置されていた
- ・足元の確認が不十分だった
- ・整理整頓ができていなかった

対策

- ・通路を確保する
- ・ホースやコードは整理・固定し、床に直接置かない
- ・足元を確認して歩く習慣をつける

学び(大切なこと)

転倒は次の事故を招く。小さな段差や障害物が、大きなケガにつながる。整理・整頓・足元確認を徹底しよう。

3 飛来・落下 (グラインダー作業中の切粉)



事例

グラインダー作業中、切粉が飛び、目に入るところだった。

原因

- ・保護メガネを着用していなかった
- ・防護カバーの向きが不適切だった
- ・周囲の確認ができていなかった

対策

- ・保護メガネを必ず着用する
- ・防護カバーを正しく使う
- ・周囲に人がいないか確認する

学び(大切なこと)

「ちょっとそこまで」の油断が失明を招く。保護メガネは100%着用。自分の目は自分で守る！

4 切れ・こすれ (バリのある部品の取り扱い)



事例

バリのある部品を素手で触り、指を切りそうになった。

原因

- ・バリの確認不足
- ・素手で触った
- ・急いで作業していた

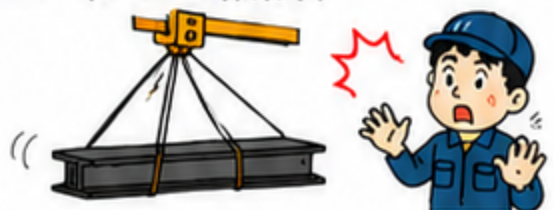
対策

- ・バリを確認してから扱う
- ・手袋（切創防止用）を着用する
- ・必要な工具を使う

学び(大切なこと)

小さなバリでも、切り傷の原因になる。「確認」と「正しい道具・保護具の使用」が事故を防ぐ！

5 吊り荷との接触(激突され) (クレーン作業中)



事例

クレーンで吊った荷が振れ、近くの作業者に当たりそうになった。

原因

- ・荷が風で振れていた
- ・合図や連絡が不十分だった
- ・吊り荷の下や近くに人がいた

対策

- ・吊り荷の下に入らない
- ・合図を統一し、確実に行う
- ・風の強い日は作業を中止する

学び(大切なこと)

吊り荷は予想以上に揺れる。安全な立ち位置を守り、「合図の徹底」で激突事故を防ごう！

ヒヤリ・ハットを見逃さないための3ステップ

① 気づく

「あれ？危ないかも？」
「ヒヤッとした！」
その場で気づく。



② 伝える

すぐに上司や仲間に伝えて、情報を共有する。



③ 改善する

原因を考え、対策を実行して、再発を防ぐ。



今日のチェック！

- ☐ 作業前に危険を確認したか？
- ☐ 保護具は正しく着用したか？
- ☐ 周囲の安全を確認したか？
- ☐ 整理整頓はできているか？
- ☐ 異常やヒヤリは報告したか？



★ ヒヤリは事故の予兆！ 「大丈夫だろう」が一番危ない！

安全はすべてに優先する！